

京都老舗の会 ^{vol.} 12

NEWS LETTER



京都老舗の会
Kyoto Company Century Club

パネルディスカッションを開催—老舗の経営と事業承継について—。

京都老舗の会では、毎年経営の事例を学ぶ勉強会（パネルディスカッション）を開催しています。今回は、近年企業において女性の後継者が増えてきていることから、女性ならではの経営や事業承継について学ぶため、府内外から老舗の女性経営者お2人をお招きしました。



01 新橋玉木屋【佃煮製造販売】 田巻 章子 (SHOKO TAMAKI)

1782年創業の東京都港区新橋にある江戸佃煮の老舗九代目。越後の国から江戸へ出てきた創業者が家伝の煮豆を商売にしたことが玉木屋の始まり。三代目の時、佃島の漁師が小魚からつくっていた保存食から発想し、江戸佃煮を完成。田巻氏は、玉木屋伝統の味を大事にしつつ、時代に合わせたうす味で、現代風の佃煮の開発に着手し、子供から年配まで幅広い層に歓迎される佃煮づくりに取り組んでいる。

02 馬場染工業【黒紋付染業】 馬場 麻紀 (MAKI BANBA)

1870年創業の黒紋付染業の五代目。初代が黒染、二代目は藍染をしていたが、三代目が黒染に戻し、四代目（麻紀氏の父）は黒の色を極めたといわれる職人。馬場氏は、上田安子服飾専門学校卒業後、会社勤めを経て平成20年に家業に入る。洋服の黒への染め替えや、家紋の染め体験、漫画などとコラボレーションした商品の開発など、従来の黒紋付以外の事業にも積極的に取り組んでいる。